



## 聖金曜日 (ヨハネ 18:1-19:42)

神はすべてのことから善を引き出される

今日、全世界が、主のご受難を黙想します。単に思い巡らすのではなく、どうしてお亡くなりにならなければならなかったのか、一人ひとり胸に手を置いて考えます。私が犯した罪をイエスは背負って、十字架の上で命をささげてくださったのです。

イエスが人間を救うために万全の準備をしておられたことを今年の聖なる一週間で黙想していますが、イエスがお亡くなりになる準備を着々としておられたと考えるのは、不謹慎なことではないでしょうか。どんな人間でも、いついつ亡くなるために今日抜かりなく準備するなど考えるのは、命を大切にすることにならないと思うのです。

一つだけ、こういう言い方は可能でしょう。「わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。」(ヨハネ 10・18) 再び受けるために、準備します。三度にわたる受難の予告さえも、「命を再び受けることもできる」ことを弟子たちに理解させる準備の時間でした。

「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」(ヨハネ 12・32) イエスが上げられたのは、人々の歓喜の声によってだったのでしょうか。そうではありません。「殺せ。殺せ。十字架につけろ。」(19・15) 宗教指導者に扇動された群衆の叫びによって、イエスは上げられたのでした。しかしイエスが「地上から上げられる」のは、この方法をおいて他になかったのです。

神はあらゆることから、善を引き出すお方です。「地上から上げられる」本来であればこれは高められること、栄誉を受けることのはずです。それが、十字架にはりつけにされることで、「地上から上げられる」ことになったのです。人々の敵意から、「死と復活」という驚くべきわざを成し遂げたのです。何も見えなくなっ、人類が決定的な背きをイエスにおこなったその時に、神はイエスに栄光をお与えになったのです。

イエス・キリストのことばと行いは、しばしば「分裂」をもたらすもととなりました。「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。」(ルカ 12・51) しかし同時に、イエスは生涯にわたることばと行いによって、救いの計画の完成を準備してこられたのです。

私たちの罪が、イエスを地上から上げてしまいました。十字架の上ではりつけにされていますが、あの十字架は罪を犯した私たちの「手」です。一人の人間の手では、イエスを地上から上げることは決してできません。何千何万という人の手が重なって、イエスを地上から上げたのです。一人ひとりの罪は些細なものかも知れませんが、しかしその罪が何千何万と重なって、イエスを地上から上げてしまったのです。

私たちは逃げることなく、今はただ、胸を打ち、赦しを願ひましょう。主はすべての罪を背負って復活し、私たちを救ってくださいます。